

令和3年1月15日時点

(案)

資料2

橋本市の自治と協働をはぐくむ条例に関する提言書

令和3年3月

橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会

もくじ

1.	はじめに（提言にあたって）	P3
2.	活動と成果	P4
3.	協働によるまちづくりの推進	P5
	(1) 情報共有 (2) 市民参画 (3) 協働のまちづくり	
4.	はぐくむ委員会の2年間と検証及び見直しへの課題	P7
5.	はぐくむ委員からの100字メッセージ	P8
6.	資料編	P10

1. はじめに（提言にあたって）

橋本市の自治と協働をはぐくむ条例（以下、「条例」という）は平成31年（2019）年4月に施行されました。

橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会（以下、「本委員会」という）は、この条例の理念と実際について全市民的情報共有を図り、自治と協働で橋本市のまちづくりを、市民参画により実現させ、それらの成果と課題を定期的に市長に提言する趣旨により設置されました。

本委員会の議論と協議に基づき、ここに2年間（令和元年7月～令和3年3月）に及び協議をふまえて、本提言を提出いたします。

令和2年の幕開け以降、新型コロナの世界的パンデミックと惨禍が日本にも重大な影響をもたらしました。本委員会では会議の取り止めや延期等に苦慮しながら、5回の全体会議、2回の提言案作成チーム会議、各グループ単位に自主的学習会を開催、アンケート調査の実施・分析など、委員相互の参画意欲と協働実践によって乗り越えてきました。

本委員会の組織構成は、条例策定委員会の伝統を生かし公募委員7名（36.8%）、女性委員9名（47.4%）となっており条例の精神を反映していると言えるでしょう。

いま、私たちは、後世の歴史に刻まれるウイルスと感染症の時代に遭遇しています。人間の生命・医療・環境のあり方や、世界・国家・自治体と主権者である市民の関係性等が厳しく根底から問いかけられています。

情報共有・市民参画・協働のまちづくりの在り方や仕組みづくりについても、自治と科学と民主主義の学習・研究、実現への行動力が不可欠です。愛する橋本市の地域にどっしりと根を張り、「あせらず・あわてず・あきらめず」に腰を落ち着け耕していきましょう。

市長におかれましては、本提言書の内容を理解と咀嚼をいただき、自治と協働をはぐくむ橋本市づくりを中心的課題として、なお数段のご尽力をお願いいたします。

橋本市に住み関わるあらゆる立場の市民が、いのちと暮らしが大切にされ幸せに生活できますように。橋本市の未来を担う子どもたちが、「自治と協働をはぐくむ条例」を活用したことで、市民が誇れる協働のまちづくりが実現した、と胸を張れますように。

思い返せば、条例づくりと本委員会での喧々譁々の話し合い・アイデア・実行力が、市民と行政（職員）との自治と協働のまちづくりレッスンだったと考えられます。

委員及び政策企画課のみなさまに、心から感謝します。問題は、これからですよ！

令和3（2021）年3月

橋本市自治と協働をはぐくむ委員会

委員長 堀内 秀雄

2. 活動と成果

(1) 全体として

- ① 条例制定と施行によって、「目的」（第1条）・主体及び担い手等の「定義」（第2条）、まちづくりの「基本理念」（第3条）、同「基本原則」（第4条）が明文化されたことで、市長・職員（行政）をはじめ、認知及び共有認識が形成され始めた。
- ② 「条例の検証及び見直し」（第16条・17条）を第8章として起こし、「実効性のある条例」に育むことを明示した。とりわけ第17条に「はぐくむ委員会」の設置について記載し、市民参画の担保と調査審議・市長への意見を述べる機会を表明した。

(2) 市民・「はぐくむ委員会」

- ① はぐくむ委員会が、条例施行後の令和元年7月から積極的に稼働し始めた。
- ② 公募委員・女性委員の構成等は、策定委員会時とほぼ同じだが、前回比率を超えた。

	公募委員比率	女性委員比率
橋本市自治基本条例策定委員会	35.0%	45.0%
橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会	36.8%	47.4%

- ③ 委員は学習意欲と行動するフットワークが豊かで、推進主体者としての自覚が高い。
- ④ 行政、民間を問わず、各種行事や研修会等で出展 PR やアンケート調査を行うことで市民・市議会・市職員等の関心をひきよせ、条例の認知度向上に貢献している。
- ⑤ はぐくむ委員会では、全員参加とテーマを深掘りするため、自発的提案から小グループ（情報共有・市民参画・協働のまちづくり）を編成し活動を開始した。
- ⑥ はぐくむ委員会委員と「はぐくむサポーター」の交流と連携に向け、動き出した。

(3) 市長・職員（行政）

- ① 前年度まで一部職員に限定していた「協働研修」を、令和元年度より職員全員を対象に実施した。また、その際には「協働に関するアンケート」を提出させている。
- ② 地域担当職員制度を導入し、区、自治会と行政をつなぐ役割を担っており、今後地域と行政との協働のかけはしとなる可能性がある。
- ③ 庁内委員会の委員選定時において公募の市民委員を採用する委員会が増加しつつある。また女性委員の占める割合も増加している。

	公募委員比率	女性委員比率
令和元年度	調査なし	20.0%
令和2年度	3.5%	21.1%

- ④ 条例の検証と見直しの際に、可能な限り数値目標を設定すること大切であろう。

3. 協働によるまちづくりの推進

(1) 情報共有（別紙1）

初年度は、はぐくむ条例周知、また条例の認知度確認を目的として、令和元年11月24日（日）「すこやか橋本まなびの日」にブースを設け出展。市が提供する情報の入手方法、どんなまちになって欲しいか等、アンケートを実施しました。アンケート回答197名（結果はP13参照）。来場者の多くが子育て世代であり、30代、40代の子育て世代に対してアンケートが実施できたことは大きな収穫です。

今年度も「すこやか橋本まなびの日」で、周知活動、アンケートを実施する予定でしたが、出来なかったため、はぐくむサポーターの協力を得てアンケートを実施しました。

サポーター回答分と、サポーターからアンケートを知り合いに手渡し郵送してもらった方で回答してもらいました。

初年度の結果（総回答数 197）			今年度の結果（総回答数 109）		
すこやか橋本まなびの日（令和元年 11 月 24 日）			令和 2 年 12 月 18 日現在		
選択肢	回答者数	割合	選択肢	回答者数	割合
内容まで知っている	11	6%	内容まで知っている	14	13%
聞いたことがある	48	24%	聞いたことがある	43	39%
いいえ	137	70%	いいえ	52	48%

初年度と今年度の結果を比較して、はぐくむサポーターの周りの人も、市政や行政に関心が高く、故に認知度の割合が上がっていると思われます。今年度初めて行ったサポーターへのアンケートでは79%がはぐくむサポーターになって良かったとの回答でした。はぐくむサポーターそして、このような関心の高い周りの人もより巻き込んでいければと考えます。

アンケート結果を基に、はぐくむ条例の認知度を「見える化」するため、「はぐくむの木」を作成。はぐくむ条例を知っている人ピンク、知らない人水色のシールに橋本市にどんなまちになって欲しいかを書いてもらい、木に成る実のように貼り出しました。

（結果は別紙参照。初年度、今年度と比較ができるようになっています。今後も続けていきます。）

(2) 市民参画（別紙2）

・「市民参画」の現状

「市民参画」はまちづくりの中でもハードルが高いものに思われます。市の現状や目指す像を理解し、将来の様々な見通しを持つことが必要だからです。それらのハードルを越えるためには適した環境（情報共有や計画説明会以前に市民と行政の意見交換の場を設ける等）が欠かせませんが、まず何よりも、越えようという市民の意欲が第一です。

はぐくむ委員会にはその意欲を持った人たちが集まっていたように感じられます。委員

になる前から、市内での様々な活動に参加し、役割を引き受けている他、委員としては当初設定されていた年三回の会議時間の外で積極的に市の情報を集めたり、グループごとに自主的に集まって議論したり、はぐくむ条例が普及するよう提案を行ったりしました。

・「市民参画」についての課題

はぐくむ条例では、すべての市民が「積極的にまちづくりに参画するように努め」（第4条）、市長等もそれを支援する（第7条）とあります。しかし、忙しい日々の中で、市民参画の時間をつくる意欲を持つ人は、今のところまだまだ少数派ではないでしょうか。

・「市民参画」についての提案

「市民参画」という高いハードルを越える前に、小さいハードルを越える経験を積むことから始めてはどうかと考え、「今の私にピッタリな『まちづくり』って？」のチェックシートをつくりました。公民館や学校、広報や SNS を介して多くの市民に利用してもらい、まちづくり、そして市民参画への意欲向上を図りたいです。

また、ろう者への手話での条例説明に加え、今後のグローバリゼーションの進展に合わせ、条例の多言語への翻訳もしくはやさしい日本語での簡単な条例説明を提案します。

(3) 協働のまちづくり（別紙3）

協働に関する職員研修の聴講（令和元年11月）や職員アンケートの実施（令和2年12月）、取組み状況の把握を行い、職員研修および地域担当職員制度を中心に検討しました。

協働によるまちづくりの推進には、情報共有、市民参画が前提となります。そのため、条例が制定されたばかりの段階では、協働の土壌作りが大切です。協働の取組みは増えつつあります。しかし、「協働」の意味が正しく捉えられていない事例もありました。

職員研修に先立ち、研修前職員アンケートが実施されています。以下、研修前アンケート、職員アンケートの順です。①条例を初めて聞いた：29%→18%、②協働の取組みを増やしたい：55%→52%、増やしたくない42%→37%、未回答3%→11%でした。

提案としては、条例を初めて聞いた職員が5%以下、協働の取組みを増やしたい職員が70%以上を目標にします。職員アンケートでは、協働を増やしたくない理由として、市民の協働に対する理解不足もありました。実際に協働の中心となるのは、市民と職員です。条例でも、市民と職員それぞれの役割が示されています。両者が理解を深め、関わりを持つことは大切だと考えます。目標到達のための、具体的な提案内容は以下の2点です。

① 協働に関する職員研修について

職員研修を聴講し、理解が深まりました。広く市民が聴講できる研修を提案します。あるいは、はぐくむ委員とともに企画する研修、市民と交流しながら行う研修も有効だと考えます。

② 地域担当職員制度の充実

地域担当職員は区長会にも参加しています。地域における協働の窓口としての機能は評価できますが、各課職員の意識付け、各課における市全体に関連することに対する協働の窓口としての機能（以前の協働推進員の機能）も必要だと考えます。

4. はぐくむ委員会の2年間と検証及び見直しへの課題

(1) 基本視点

- ① やはり条例制定・施行の歴史的意義は大きい。「お飾り」に堕するか、「羅針盤」として活用し尽すか、が分岐点になります。
- ② 策定過程で目標とした「市民と行政の協働で元気なまちへ」の趣旨は、条例の目的（第1条）で「協働のまちづくりの推進と自立した地域社会の創出」と明確化できました。
- ③ 本委員会は、条例の意義や市民的共有を広め実効性を豊かにするために、「条例の検証及び見直し」（第17条）が規定されました。改めてその責任自覚を持ってました。
- ④ 特に基本原則（第4条）で肝となるキーワード（「情報共有」・「市民参画」・「協働のまちづくり」・「相互の尊重」）が、本委員会においても合言葉となりました。

(2) はぐくむ委員会の2年間

- ① はぐくむ委員会の会議等は、新型コロナ禍による生命の危機と社会不安等により、年度を跨いで1年1か月間にわたり、延期・不開催を余儀なくされました。
- ② しかし、委員会の各メンバーは、正規の会議以外にも自主学習会を開催し、SNSの活用でグループ毎にコミュニケーションを取り合いました。その後、はぐくむ委員会と事務局のグループコミュニケーションにもSNSを利活用しました。
- ③ 「調査なくして提言なし」の精神で、各グループの基本原則課題を、可能な限り定時定点でアンケート調査や聞き取り・インタビューなど、感染環境や日程制約の中でも創意工夫しつつ委員会外でも活動を積み重ねました。

(3) 検証及び見直しへの課題

- ① 新型コロナ禍等による諸制約や日程的困難も体験したが、条例に基づきはぐくむ委員会として検証を踏まえた提言を定時定点でまとめ市長及び市民に公表していきます。
- ② 2年間の学習・実践・検証などに不完全燃焼の思いから、次年度以降の委員会構成におきましては、意欲と熱意のある委員の継続配置等をご検討いただきたいと考えます。
- ③ 今後もすこやか橋本まなびの日でアンケートを実施するとともに、はぐくむ条例の認知度を上げるため、必要な情報の提供をしていきます。
- ④ 広報はしもとに年1回情報を掲載するコーナーを設けてもらいたいです。また、市のホームページや回覧版に情報を掲載してもらえよう働き掛けをしていきたいです。
- ⑤ はぐくむサポーターに情報提供するとともに、情報交換のための交流会を実施するなど相互交流の機会を増やします。

「条例制定は、ゴールではなくスタート」なのです。はぐくむ委員会は、自治と協働のまちづくりへ生み出し、持続させるプロデューサーです。自助と公助を豊かにする共助の耕し人です。

条例施行後の初めての提言を提出します。中・長期的な視点から、厳しくも温かい提言の基本ルールを「見える化」したい。それが、はぐくむ委員会一同の希望です。

5. はぐくむ委員からの100字メッセージ

(敬称略・順不同)

遠藤 和美

はぐくむ委員会に参加させて頂き、色々な意見を聞くことで市政の仕組が学べました。少子高齢化が進み、組織の運営も大変の中、住みよい橋本を議員、市職員、市民ともに協働して、地域社会を作るため、一步一步仲間作りから始めよう。

乾 幸八

はぐくむ条例を旗印に「住み慣れた地域で、子どもから高齢者まで、地域全体で支えあいながら、安全・安心な生活をおくれるまち」の実現のため、橋本市に関わる皆がまちづくりの担い手となることを願っています。

岸田 昌章

「ゼロからの創造」の次は「はぐくむ」への2年でしたが、コロナ禍の中で予想以上に進まず。超少子化超高齢化は待ったなし。「これまでどうにかやってきた」ではなく「これからは皆で力を合わせてやる」時代へ。

戸島 浩子

条例が施行されました。まずは身近な小さな協働を考えましょう。「出来ない事」を嘆くよりも「出来る事」を一緒に探しましょう。一人一人がアンテナを張って少し意識を変える事で、未来は拓けると信じます。

山本 光子

少子高齢化等により地域の担い手の減ることが予想されています。この条例を指針にして、住民が互いに支えあって地域を活性化させましょう。そして、市政と連携し豊かで住みよい橋本市を末永く存続させていきましょう。

小林 俊治

立場の異なる様々な担い手が協力し合う協働の考え方が橋本市根付くことは、地域の教育力の向上や持続可能な地域社会の実現の源となり、ひいては一人ひとりが彩り豊かな生活を送れるような自治のまちの実現に大きく近づくと思います。

上田 ひと美

今この時を生きている私達は、市民や行政の別なく智慧と力を合わせて、「住みよい橋本・住んで良かった橋本」を維持していくことが大切だと思います。だれもが笑顔で、いきいきと希望をもって暮らせるように。

森川 嘉久

何事にも全力で取り組むはぐくむ委員の皆様方をみて、はぐくむ条例の明るい未来を感じました。委員としての任期は終わりますが、これからもこの熱い思いをもって、橋本市を盛り上げ、協働の“わ”を広げていきましょう。

森田 知世子

この時勢、出会いから始まる繋がりの大切さを実感しています。地域づくりは、みんなが少しずつ心がけること、それが集まり協力することで大きな力になると考えます。今、自分ができていることを考えて行動し、笑顔になれると良いなと思います。

前田 陽一郎

自治と協働は、これまで以上に重要になる課題だと思います。条例が制定されたことやその中身について出来るだけ多くの人に知ってもらい、その考え方が浸透するよう活動を継続したいと思います。

「はぐくむ条例」の検証をどんな思いで行ったか、検証に関わることで学んだことなど、はぐくむ委員から市や市民の皆さんへのメッセージです。

大山 善久

みんなで橋本市の未来を考えることがこんなに楽しいなんて！ぜひ多くの方に委員を経験してもらいたいです。この委員会が委員の主体性によって進化し続け、真の市民協働を強かに推進する組織となることを期待します。

田村 亜美

ふかふかの土を育てて、種をまく。これは、いろいろな花を咲かせるには大事なことです。協働のまちづくりも同じだと思います。意欲的な委員の皆さんと活動できて、これから、ますます楽しみになりました。

東 美樹

感染症の影響で思うような活動ができず残念でしたが、活動再開後、委員会内で活発な交流、意見交換が生まれ、住みよい市にしたい！という熱い思いに私も者過ぎる思いを新たにしました。今後もこの思いを多くの人と共有できるように活動していきたいです。

藤田 佐紀

委員就任当初、「はぐくむ条例」って？「協働」って？と、分からないことばかりでした。皆さまと意見を交わすことで知らなかったことを知ることができました。自分たちの住みたいマチは自分たちで作る。そんなシンプルなことでした。

平家利也

はぐくむ条例の必要性や時代背景の理解や未来のまちに何が必要なのかを幅広く考えなければ今後の評価や検証が難しいと感じました。今期はコロナ禍で大変な時でしたが委員の自主性と直向さにまちの未来を感じました。

藪 祐梨子

「なんでも自分次第！」が最終的な収穫です。はぐくむ委員会に入っても、自発的に動かないと、市の状況は変わらないと気づきました。委員であってもなくても、もっと積極的に想いを形にしていこうと思います。

浅野 匡洋

「誰かのせいにしない」一人一人の暮らしの中で行う判断と行動が自分の子どもの未来の姿を変えていく。できる人が、できる時に、できる事から。それぞれの立場でできることを家族・仲間と話し、共有し、行動しよう！

資料編

- | | | |
|-----|---------------------|------|
| (1) | はぐくむ委員会のあしあと | P1 1 |
| (2) | 橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会名簿 | P1 2 |
| (3) | すこやか橋本まなびの日アンケート | P1 3 |
| (4) | 職員アンケート | P1 4 |
| (5) | はぐくむサポーターアンケート | P1 5 |

(1) はぐくむ委員会のあしあと

- 第1回橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会（令和元年7月8日）
【内容】はぐくむ委員会の公開及び傍聴に関する要領（案）、はぐくむ委員会
橋本市の自治と協働をはぐくむ条例、次回の内容（予定）と開催日時
- はぐくむ委員会勉強会（令和元年8月5日）
【内容】どこを検証したら協働が進むか？
- 第2回橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会（令和元年8月26日）
【内容】はぐくむ委員会で検証するポイントの検討（グループワーク）
グループワークの報告
- すこやか橋本まなびの日ブース出展（令和元年11月24日）
【内容】今年度の委員会のまとめ、来年度の進め方について
- 第3回橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会（令和2年9月30日）
【内容】本年度の進め方、条例関連制度等の検証シート、次回開催日程等
- 第1回提言（案）作成チーム会議（令和2年10月19日）
【内容】申し合わせ事項、チーム会議の進め方
もくじ（案）、次回はぐくむ委員会への報告の仕方
- 第4回橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会（令和2年11月15日）
【内容】条例関連制度等の検証シート、提言（案）
- 第2回提言（案）作成チーム会議（令和2年12月17日）
【内容】提言（案）
- 第5回橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会（令和3年1月15日）
【内容】提言（案）
- 第6回橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会（令和3年3月 日）
【内容】提言（案）の最終確認、市長へ提言の提出

(2) 橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会名簿

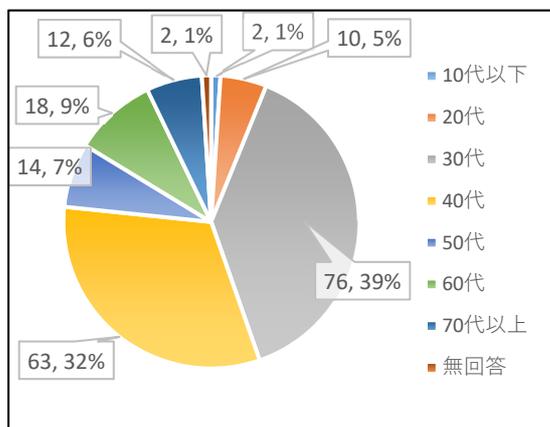
区分		団体・役職	氏名
1号 委員	学識経験者	和歌山大学名誉教授	堀内 秀雄
	〃	武庫川女子大学	松端 克文
2号 委員	各種団体	橋本市区長連合会 会長	乾 幸八
	〃	橋本商工会議所 常議員	前田 陽一郎
	〃	高野口町商工会 理事	平家 利也
	〃	一般社団法人和歌山県社会福祉士会 理事	田村 亜美
	〃	ふれあいサロン“やまだ”世話人	山本 光子
	〃	橋本市食生活改善推進協議会	遠藤 和美
	〃	よもやま交流会 会長	藤田 佐紀
	〃	橋本市家庭教育支援チーム 会長	森田 知世子
	関係機関	副市長	森川 嘉久
	〃	教育長	小林 俊治
3号 委員	市民公募	市民委員	浅野 匡洋
	〃	〃	上田 ひと美
	〃	〃	大山 善久
	〃	〃	岸田 昌章
	〃	〃	戸島 浩子
	〃	〃	東 美樹
	〃	〃	藪 祐梨子

(3) すこやか橋本まなびの日アンケート結果

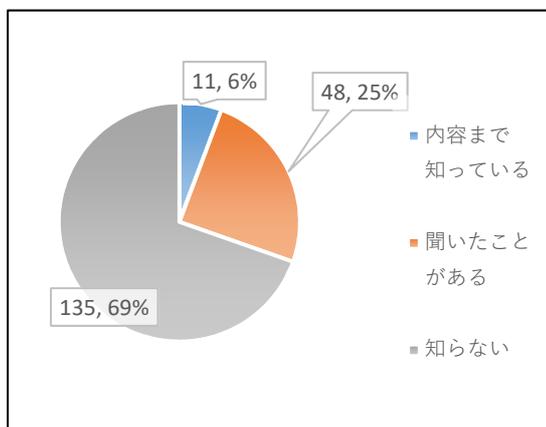
回答者数：194 名

令和元年 11 月 24 日実施

問1. あなたの年齢は？



問3. はぐくむ条例を知っていますか？

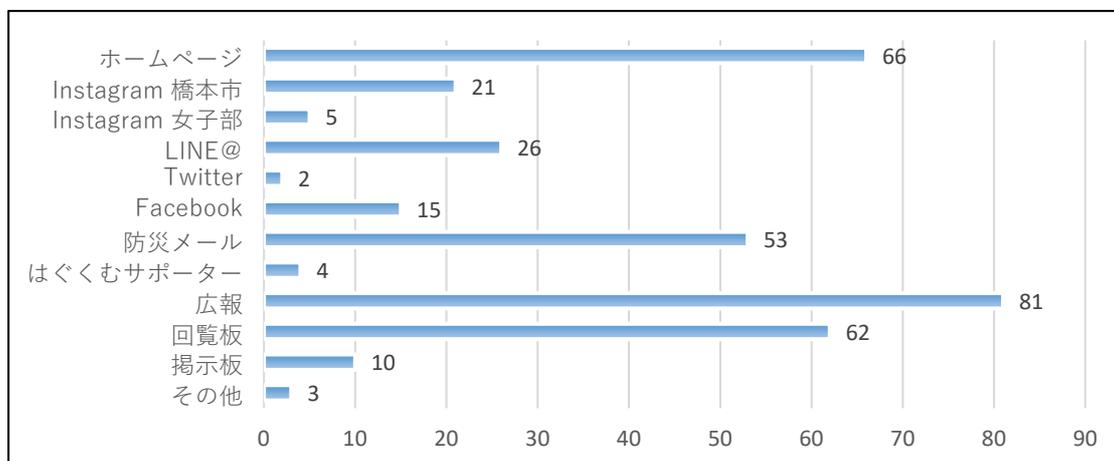


問2. お住いの小学校区は？

小学校区	回答者数	割合
紀見	18	9%
柱本	7	4%
境原	12	6%
橋本	23	12%
学文路	3	2%
清水	7	4%
隅田	15	8%
あやの台	15	8%

小学校区	回答者数	割合
恋野	2	1%
西部	7	4%
城山	25	13%
三石	12	6%
高野口	10	5%
応其	7	4%
信太	1	1%
市外	29	15%
無回答	4	2%

問4. 橋本市が情報提供する項目で、ご覧になったことがあるものは？（複数回答可）



(4) 協働に関する職員アンケート結果

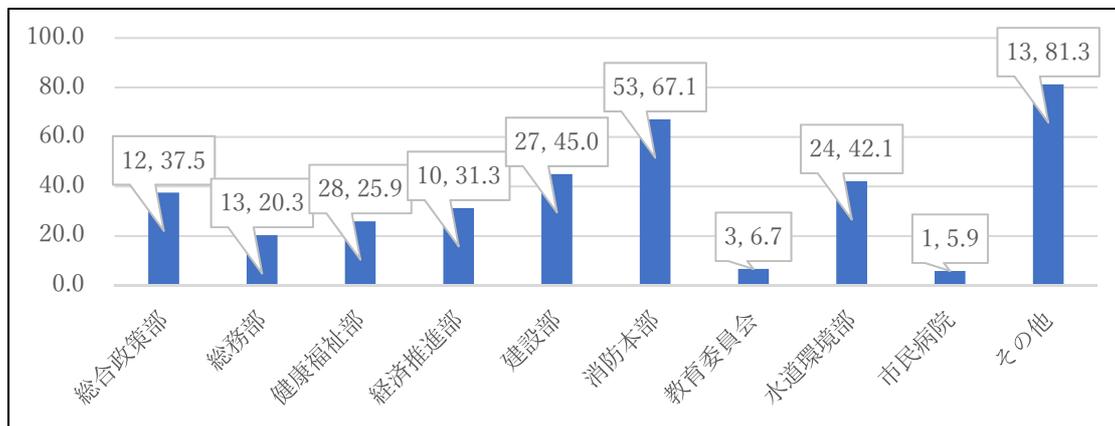
対象：橋本市庁内アカウント所有の職員

実施期間：

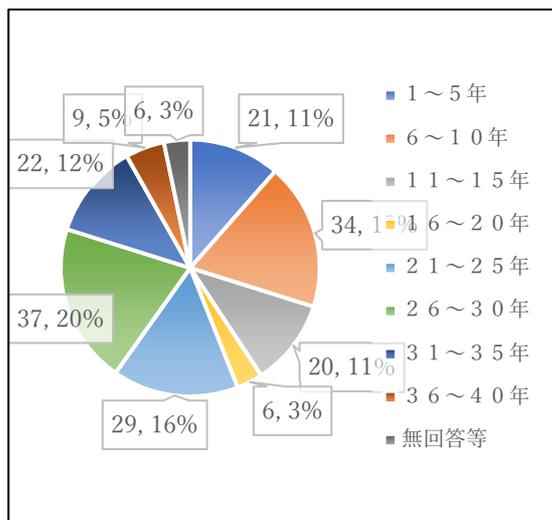
回答者数：184名 回収率：33%

令和2年11月24日から12月4日まで

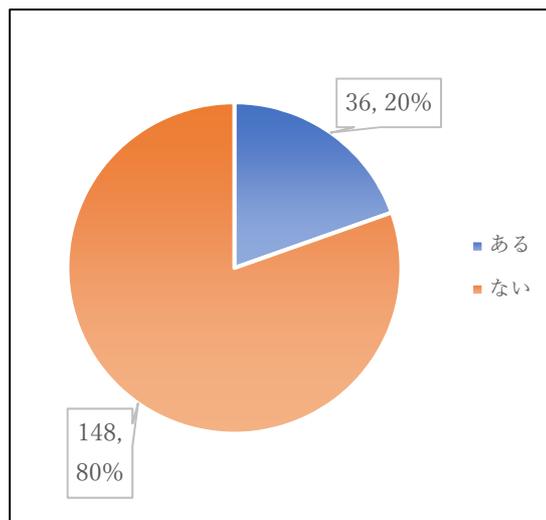
問1. 各部等回答率



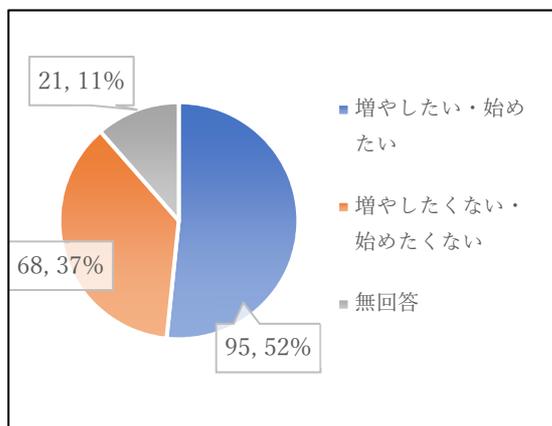
問2. 勤続年数



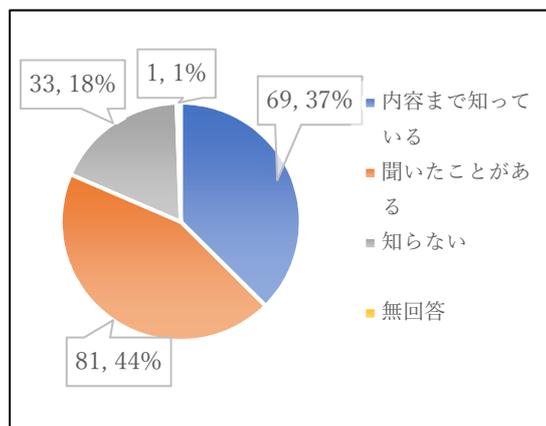
問3. 令和2年度の協働の実績



問4. 協働の今後



問5. はぐくむ条例を知っていますか？

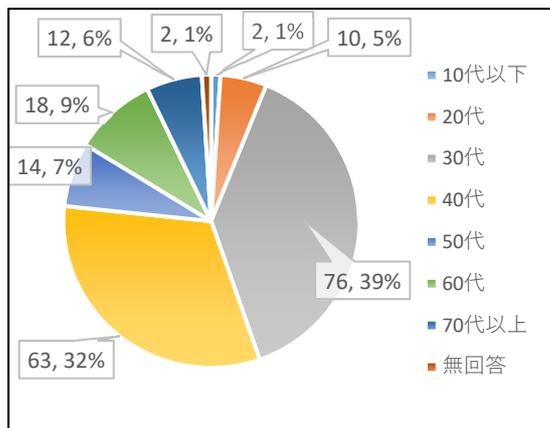


(5) はぐくむサポーターアンケート結果

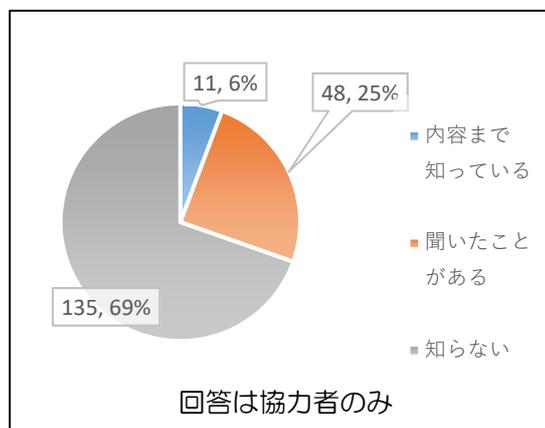
対象：はぐくむサポーター、協力者
 回答者数：150名（うち協力者112名）

実施期間：令和2年11月25日から
 令和2年12月11日まで

問1. あなたの年齢は？



問3. はぐくむ条例を知っていますか？

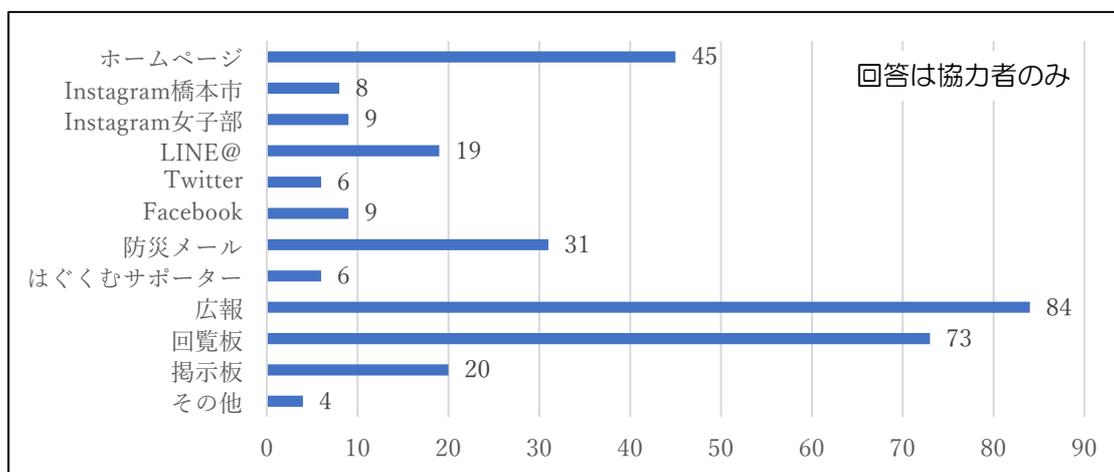


問2. お住いの小学校区は？

小学校区	回答者数	割合
紀見	14	9%
柱本	7	5%
境原	3	2%
橋本	18	12%
学文路	5	3%
清水	21	14%
隅田	6	4%
あやの台	3	2%

小学校区	回答者数	割合
恋野	5	3%
西部	8	5%
城山	16	11%
三石	14	9%
高野口	22	15%
応其	4	3%
信太	0	0%
市外	3	2%
無回答	1	1%

問4. 橋本市が情報提供する項目で、ご覧になったことがあるものは？（複数回答可）



橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会
(事務局：橋本市総合政策部政策企画課)